

星屑

Jan. 06
No. 370



M42 オリオン座の大星雲中心部

2005年10月14日 41Cm反射直焦点

キャノン KissDN

熊本県民天文台

2006年頭のご挨拶 四半世紀の歩みと次への一歩

台長 艶島 敬昭

熱気のうちに2005年が過ぎました

2005年の年末は、暖冬か?という予想に反して寒波の襲来が続き、一般公開や観望会の参加者が少なくなりましたが、その分たっぷりとデジカメ撮影体験を楽しんで頂いたりして、相変わらず熊本県民天文台は賑やかな熱気に包まれていたようです。新しい取り組みにチャレンジし続ける運営委員の方々を始め会員の皆さんや熊大、九州東海大、崇城大の各天文部の皆さん方には年間を通して熱心なご参加・ご支援を頂きました。お陰様で熊本県民天文台の次の時代を開く確かな希望を持って2006年を迎えることができました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。



施設・設備の改修と充実

2005年はスライディングルーフの一部改良や屋上防水・断熱工事を行いました。望遠鏡のコントローラーも更新しました。助成金を活用しての一眼デジカメ(Canon20Da)購入や城南町子ども教室の協力でモデルロケット打ち上げ機材の整備なども行われました。懸案だった施設や設備の改修と充実が大きく進んだわけです。

その結果、観測室がとても使いやすくなりました。会員有志数名の発案と寄付で、41cm反射望遠鏡に20cm(F5)反射鏡筒が同架され、星雲・星団などの広視野撮影もできるようになり、デジカメを活用しての天体写真撮影が一層の広がりを見せています。

こうした「使いやすく、使って楽しい天文台」づくりの効果が、大学生さん達による利用の増加や、デジカメ手持ち撮影の普及や「デジカメで天文学」講座の人気にもつながっているのだと思います。これらの成果を見ると、今年実施した「資金投入」は、天文台の将来を拓く「投資」になつたといえるでしょう。

大勢の方々に支えられて

ふり返ってみると、熊本天文研究会という名の同好会として1968年に発足した時からは38年を数えます。天文台を建設し一般公開を始めた1982年からでも24年ですね。また、一般公開と天文教育・普及、独自の観測・研究による学術の振興、そして「星空の見えるまちづくり」を柱に、特定非営利活動法人として歩み始めてからの最初の3年間もしっかりと乗り切り、着実な歩みが始まっています。このような活動をこれまで共に担い、共に熊本県民天文台の歴史の1ページを刻みつつ、アマチュア天文愛好家としての情熱で支え続けて下さった歴代の会員・運営委員の皆様方に深く感謝致します。

この間、熊本だけでなく日本の社会全体も様々な大きな変化に見舞われ続けてきたわけですが、ここまで継続できてきたのは、皆様方の柔軟な発想や臨機応変の対応と、自発的で献身的なボランティア活動のお陰です。

また、皆さん方の1つ1つの新しい試みが、次々に新しい人とのつながりや活動の展開に

つながり、熊本県民天文台の多彩な活動の広がりと質的な深化をもたらしていて、熊本県民天文台が本当に大勢の方々に支えられていると実感しています。

「25周年」と次への一步

5月には天文台開設から数えて満24年となり、いよいよ25年目になります。大勢の人達の力をつなぎ合わせながら淡々と続けてきた活動ですが、四半世紀（25年）というのはやはり大きな節目に違いありません。現在、県民天文台には同好会設立時から参加してあられる方も、つい先日仲間に加わった方もいらっしゃいますが、新年を迎えた今、ひとり一人がどのように今年を過ごし、2007年5月にはどんな25周年記念日を迎えたいかを考えいただき、積極的に提案・提言をして欲しいと私は願っています。そして、皆さん方ひとり一人が自分の考える方向に向かって、着実に次の一步を踏み出していくべきだと思います。

大きな課題も見えてきた

昨年の年頭挨拶で、私は県民天文台の活動のすべての分野で社会の注目が集まっている、活動すればするほど幅広いニーズが私達を待っているという現状を紹介しました。その傾向は2005年も顕著でした。一般公開でも、天文教育・理科教育の分野でも、さらに「星空の見えるまちづくりでも」、次々と取り組みの発表や原稿執筆の依頼、観望会開催の依頼、講師派遣や講演の依頼などが寄せられました。

それらの様々な要請に応えるうちに、ロータリークラブさんや建築家さん達の間にも「光害対策」への取り組みが広がり始めたり、「星ナビ」や国立天文台など日本の天文界でも光害対策への取り組みに変化が起り、大きな動きも見え始めているんです。

私達の「小さな天文台」ガリードする、こんな「大きな動き」を見ていると、私達が直面し、何とか乗り越えていきたいと思う課題もまたはつきりと見てくるように感じます。

養成プログラムをつくろう

このところ天文台の運営委員の数は減少傾向が続いている。大型望遠鏡が扱いにくいことや社会のリストラ傾向で余力が乏しいこと、若者の理科離れや学生さん達の熊本県外への就職なども影響しているのでしょうか。こうした現状の中で、私達が持っている知識や技術やノウハウをうまく伝え、天文台の一般公開に携わることの魅力を伝えて、「運営」に加わってもらえる人材を育てる「養成プログラム」、いろんな場面で活用できる「運営プログラム」、「解説プラン」などなど、私達が整備した方がよいと思われる事柄が沢山あります。

運営担当者の負担を減らしつつ「楽しさ」を倍加させる、星空ナビゲーター「養成プログラム」をつくってみませんか？

皆さん方の多彩なノウハウや斬新なアイデアを集めれば、きっと楽しいプログラムが出来上がるはずです。

資金の確保も大切です

もう一つの課題は、やっぱり「お金」です。2005年は補修費などがかかりましたから、天文台の会計は基金（定期預金）を除くほとんどの手持ち資金（繰越金）を使い果たした状態です。望遠鏡制御をもっと手軽にとか、もう少し「次」への手立てを練りたいのですが、それにはどうしても新たに資金が必要です。

また、学生さん達の活動が活性化しつつある現状を支えるには、交通手段の確保を含めてある程度の予算が欲しいところです。こんなふうに、現状の組織構成や運営手法、資金の調達法やお金の使い方など、幅広い事柄に渡って、経験だけに頼らない、新しい視点での取り組みが必要になっています。

4半世紀にわたって、アマチュア愛好家の手で続いた熊本県民天文台を、次の世代に、次の四半世紀へとつないでいく大きな節目に私達はさしかかっていると思うのです。

皆さん方と一緒に、素晴らしい25周年記念日を迎えることができるよう願っています。

11/22 岡山で「光害対策」を講演 「星空の見えるまちづくり」 … 生活者の視点で考えた光害対策 …



国立天文台岡山天体物理観測所から

夏休み中の忙しさから解放され一休みしていた9月上旬頃、天文台のメールアドレスに1通のメールが届きました。国立天文台岡山天体物理観測所の吉田所長さんから、11月に開催する「観測協力連絡会議」で熊本での光害対策の取り組み「星空の見えるまちづくり」を発表（講演）して貰えないか、というお誘いでした。「星ナビ」の記事やホームページを見て、地道な取り組みがとても良いと思ったそうです。「熊本の取り組みを発表させていただけるのなら、ぜひやらせてください」と気軽に返信メールを出しました。正式な承諾が貰えるのか少し不安でしたが、やがて内定→正式決定と準備作業が進み、前回開催時の資料や今回の開催を知らせる案内文書の案が送られてきました。ようやく会合のイメージがつかめてきました。そうか！ この会議が日本での光害対策を進める最初の取り組みだったのか、と気がつき。そこに呼んで貰えるということは・・・と一緒に緊張感が襲ってきました。発表は電子紙芝居を使ってということに決まり、内容を吟味しつつ準備を進めました。



天文台の見学

連絡会議の前日、岡山経由で鴨方町にある岡山天体物理観測所に到着、「講演」の内容などについて打合せを行ったあと、観測所内の各施設を見学させていただきました。吉田所長さんの詳しい解説付きで、つい最近まで国内最大の望遠鏡であった188cm鏡をはじめ、改造中の81cm望遠鏡や3CCD冷却カメラを備えたガンマ線バースト観測用の50cm鏡など、とても興味深く見学でき感激！でした。81cm望遠鏡は、太陽観測用から赤外線望遠鏡へと変身中とあって、いろいろ不要なパーツがでているとか。中でも20cm屈折鏡筒や口径1mのコリメーター反射鏡（球面）などは「もらい手を探している」ということでした。そこで、夜、ホテルから天文教育普及研究会（九州）のMLに「もらい手」募集のメールを出したら、あっという間に複数の立候補がありました。





倉敷駅前から美観地区への街路照明



美観地区の夜間照明



観測協力連絡会議



進行役の隣に国立天文台の海部台長が

倉敷市内の夜間照明

国立天文台見学のあと、やってきたのは倉敷市です。天文台からも倉敷の町並みが遠くに見えていて、「そのあかりが気になる」といわれましたが、古い町並みを保存した観光名所「美観地区」もあって、どんな夜景が広がっているのだろうと見学しました。駅前からの幹線道路沿い（一番上の写真）では、街路灯にも下向きのルーバーが仕組んであって、通りに沿った方向以外へは光が漏れにくいデザインでした。

美観地区は、倉敷川のほとりに江戸時代の蔵屋敷などが保存されていて、白壁がとても美しい落ち着いた街並みで、照明も控えめです。既設の街路灯の上部に投光用のランプが組み込まれていて、ところどころ白壁を浮き立たせる工夫がしてありました。某有名照明デザイナーの仕事らしいです。「投光器照明をもう少し暗くできたら最高だ」と思ったのですが、既設の照明器具の数を増やすずにこれだけの工夫をしたのでしょうか、「他でも見習つたらどうだろう?」と思いました。

観測協力連絡会議で

岡山県環境部局からの報告では、平成14年に日本で最初に制定された岡山県の「光害防止条例」は、今年（平成17年）3年間の猶予期間の後に「違反者は罰則適用」となったそうですが、「条例制定前から設置している」ことを理由に「灯光中止」を拒否するサーチライト設置者が数社あって、「その説得にとても時間がかかり苦労があった」そうです。熊本では、条例制定前にほとんどのサーチライトが消灯されたことを思い出し、熊本での取り組みの意義を改めて確認できました。

私の講演は、県民天文台の紹介に始まり、光害の進行で存続の危機を感じ「光害対策」の行動を始めたこと、地域住民との対話の中から「生活の場にあふれる光」に焦点を当てるようになったことを説明しました。また、市民による夜間照明観察会や防犯灯の改良を通じて着実に活動が広がり、地域社会での支持も広がったことを伝え、天体観測支援のための「光害対策」から「市民生活のための光害対策」へ質を変えよう！と「上方光束ゼロ」照明器具の普及促進を提言しました。

講演終了後、海部台長さんが「ボランティアパワーはすごいね！」「天文台もこれからはこんな視点が必要だね」とわざわざ声をかけて下さいました。良かった！

12/2 ライ☆パ 2005 に初参加！

建築家さん達の手作り照明と防犯灯

★★★ 「上方光束ゼロ」照明の採用を提言 ★★★



ライ☆パ 2005 に初参加

日頃、仕事でおつきあいのあった建築事務所での何気ない会話から話が広がって、熊本で活躍する建築士さん達が集まるパーティーに参加することになりました。

「ライティング・パーティー2005」というこのパーティー、実は十数年前から続いているという由緒ある集まりなんだそうです。建築設計事務所などで建物の設計に携わる方々のなかでも、自らを「建築家」だと自覚する人達の集まり、日本建築家協会の九州支部、熊本会の方々が主催するクリスマスパーティー（忘年会？）ですが、集まって食べて飲んで談笑するというだけでなく、毎年手作りの照明器具を持ち寄ってはその製作意図などを披露し合うユニークな会が続いているそうです。

上方光束ゼロの防犯灯

そんなパーティーに、今年は「城南町の防犯灯」を出品したわけです。作品名は「星空の見えるまちづくり」。上や真横には光を出さず落ち着いた夜景を作る、道路や生活の場は明るくするが、建物の個性を消したりせずあくまでも脇役として「照明」の機能を果たす。街や暮らしの安全や安心を確保しながら、美しい星空など自然環境の保全と省エネにも貢献する、城南町では463灯が既に導入済みと紹介しました。

ちょうど一級建築士等による構造計算書の偽造問題が明るみに出て、建築物や建築士への社会の視線が厳しくなり始めた時期でしたから、参加された建築家の方々もいろんな意味で私の「作品紹介」に真剣な表情で聞き入った下さいました。

嬉しい反響も

数名の方が「とても良い取り組みです」「照明器具が主人公になってしまっては良くないですね」と声をかけて下さいました。また、建築ジャーナル誌の記者の方が「こんな視点で光を論じるのは初めて知った」ととても興味深く感じられたそうで、熱心な取材を受けました。「ぜひ誌面で取り上げたい」と言って下さいましたので、そのうち掲載されるかも知れません。

12/10 宇土市網田中学校通学路に 「上方光束ゼロ」防犯灯が設置されました

☆☆ 宇土ロータリーも 「星空の見えるまちづくり」 ☆☆



通学路の安全確保

城南町でも、防犯灯整備の最初のきっかけは「通学路の安全確保」という住民からの要望でした。同じような安全・安心への要望が以前から各所で出ていましたが、行政の財源不足などから手つかずのまま放置されている例が多くなったようです。つい最近、小学生が通学路で拉致され殺されると言う事件が全国で相次ぎ、「通学路の安全確保」は緊急を要する地域社会の重要課題になっています。

そんななか、12月10日（土）、宇土ロータリークラブさんの手によって、宇土市網田中学校の通学路およそ250mに、城南町で採用している「上方光束ゼロ防犯灯」10基を設置する工事が行われました。2年ほど前から計画されてきたもので、このたび資金集めに目途がつき、同クラブの20周年記念事業の1つとして実施されたものです。

立木も伐採して

当日は朝から10名ほどが現地に集合、電気工事業者さんの手で防犯灯の付け替えや新設が進められるのを見守りながら、一方で、丘の上の学校へと通じる通学路に覆い被さった雑木を伐採する作業が進められています。パケット車やリフト車、ダンプカー、それに樹木選定用のハシゴなどロータリークラブの会員さん達から借り集められた機材が活躍するので、どんどん作業が進んでいきます。みるとみるうちに薄暗かった通学路が明るく、見通し良くなっています。お昼までに伐採作業のほとんどと防犯灯工事の半分が出来上りました。

熊日新聞の取材も

午後からの作業中に熊日新聞の記者さんも取材に駆けつけてくれました。「通学路の安全」が大きな話題になっていますから、記者さんも「タイムリーな話題です」「明るくなるけど環境にも配慮、ですね!」と声が弾んでいました。これが「星空の見えるまちづくりです」とロータリークラブの会長さん。ささやかな一歩ですが、社会のニーズにぴったりマッチした「光害対策」。しっかりした歩みを続けて来たことがこれから実を結んでくれそうです。



「満月超級！ 大火球出現とビデオ観測の成果」

影山和久

10月30日から31日へ日付も変わろうとしていた深夜、その晩は思いのほか透明度が良かったので自宅観測室で一眼デジカメD50のファーストライト撮影を行っていました。

ちょうど露出を開始した瞬間でした。突然観測室内に強烈なフラッシュのような閃光が差し込みました、と同時に観測室の南側の床と壁に望遠鏡の影をはっきりと見たのです。「えっ」と一瞬考える間もなく反射的に影の反対側にあたる北の空を振り返ると、そこには痕と呼ぶにはあまりにも明るい残光を残しながら飛ぶ大流星とその飛跡が浮かんでいました。

その飛跡は毎秒単位で、身をよじるような変化を見せ10数秒で見えなくなりました。

私は、暫し至福の余韻に浸っていましたが

「あ！ ちょっと待てよ。ひょっとすると…」

そうです。ちょうどその方向を流星の

ビデオ観測システム（UFOcapture）で定常観測中だったのです。（！）

早速、デジカメの露出を中止して室内へ戻り確認すると観測システムは間違いなく作動していました。通常でしたら観測プログラムは翌朝5時30分まで設定していますが、この際そんな事は関係なしです！

早速、観測を止めてバックアップを保存し記録された動画を再生してみました。

結果は…ものすごい事になっていました。

写野の真ん中付近にスッと現れた光点があつという間（写真①：複数フレーム合成）

に巨大な光球になったかと思ったら突然モニター画面が真っ白で何も見えなくなつたのです。（写真②）

その瞬間の明るさは満月を超えるもので正直これを見た瞬間はひざが震えました。

因みに、写真右下に写っている隣家のTVアンテナは、写真①では近所の街灯で照らされていましたが、写真②の瞬間では大火球によって影になっています。

のことだけでも如何に凄い明るさであったかを実感できると思います。



写真③は最大光度直後の光球の様子です。
写真④は全飛跡をフレーム合成と画像処理
によって浮かび上がらせたものです。過程
の後半は黒白反転して見易くしています。
【実際の動画は県民天文台のHPで公開中です】

【分析結果】出現 2005/10/30 JST

発光開始時刻 23h 40m 57.09 s

位置 22h 17m 64° 42'

方位 150.7° 仰角 43.8°

発光終了時刻 23h 40m 59.06 s

位置 19h 12m 57° 30'

方位 148.4° 仰角 24.9°



A : 開始点 B : 最大光度付近 C : 終了点

(方位は南から時計回りの角度)

残念ながら明るさは CCD の飽和と AGC 動作が影響している為に測定不能でした。
飛翔経路から「おうし群」に属する火球と考えると速度が凡そ 29 km/S 程度と見積れます。
因みに、おうし群の平均的速度（約 30 km/S）と比較してもほぼ同定出来そうです。
残念ながら他に同時観測の報告はありませんでしたが、幸い火球ネットワークの掲示板に目撃談が数件あり、これらの内容を加味して実際の空間的な出現位置を再現してみました。

- ①福岡市 北西方向
- ②北九州 西 仰角 60 度 右落ち
- ③大分市 西北西 40~10 度 真下
- ④松江市 西南西 40 度
- ⑤出雲市 北西方向

福岡県の北、玄海灘の壱岐島北東海上の
上空あたりの様です。出現高度は速度が遅
い事から 80 ~ 50 km 位が主な経路と
想像しています。更に念の為に高感度地震
計の観測データもさらってみましたが、空
振現象は観測されていない様でした。

ところで今回の現象は電波観測でもしっかりと同時エコーを記録しています。



これまで百武彗星やHB彗星、レオニズ等の天文現象に出会う折々に、思わず「天文やつ
ていて良かった」と思ったものですが、間違いなく今回の大火球（いわゆるボライド）との
遭遇も「観測続けていて良かった！」の代表格になりそうです。

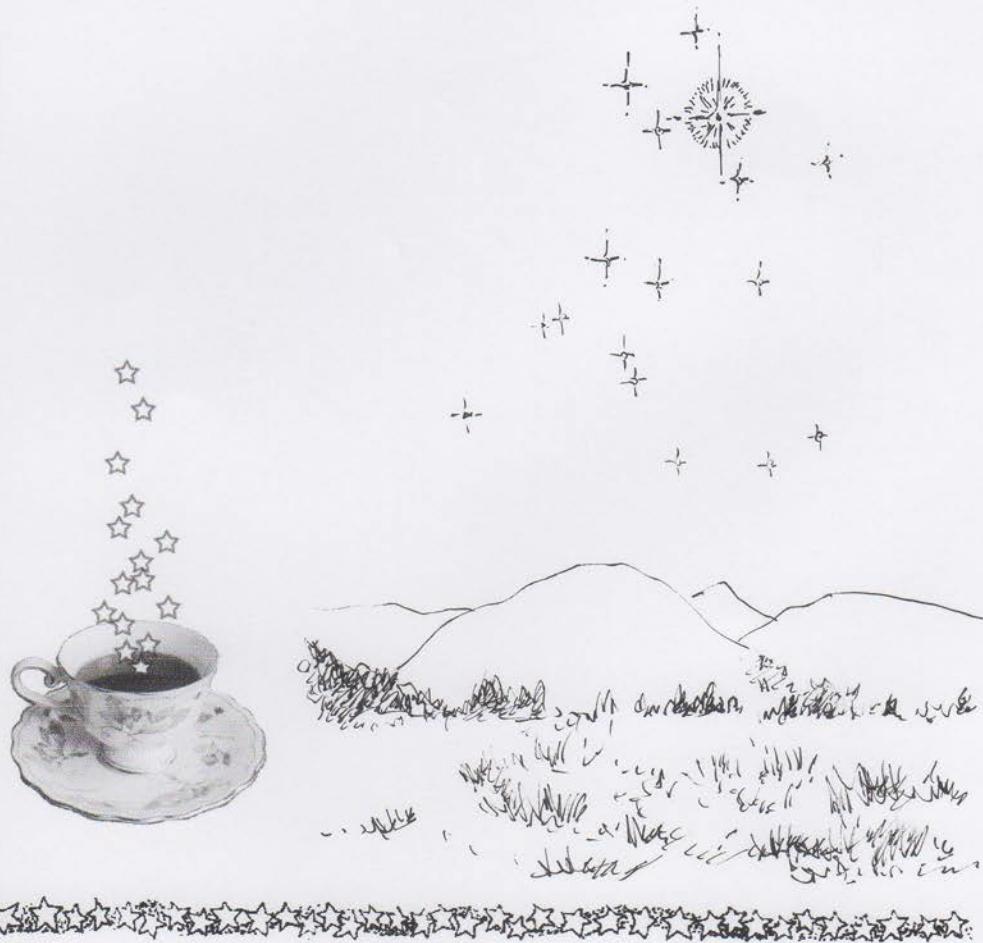
☆☆☆ ちょっと一眼

Poem & Illustration

12月も半ばを過ぎました。「やっと秋らしくなってきました。」と先月書いたのが、嘘のような寒さです。巷はすっかり真冬の様相で、星見もままなりません。

金星は、すっかり細く大きくなり、11月4日の東方最大離角、12月9日の最大光度を過ぎ、だんだん低くなり始めています。去り行く火星を楽しめるのもあとしばらくでしょうか。いよいよ土星の季節が始まりますね。

とは言うものの、冬の美しく煌く夜空にはなかなかお目にかかるのが辛いところです。新年は戌年。妖しく輝くシリウスを堪能できる年になってくれるでしょうか。



獲物 その2

どおおんと
銃声が響いた

冬枯れの山野には
かさかさと北風が過ぎていくだけで
セイタカアワダチソウの白い綿毛が
一面の雪野原を装っているが

どこかに獲物が潜んでいるらしい

今年こそは大物を狙おうと思うのも
毎年のこと

満月に遠吠えしてみたところで狼になれるわけでもないが
所詮は猟師に付き従う獵犬にすぎないと卑下することもない

今は前方の獲物に
全身全霊を集中することだけ
それだけで輝くことができる

冬の夜空はおまえのものだ



☆3人のコペルニクスに会ってきた（その5）☆

白鳥

今月はワルシャワ編。やはり移動はバス。このバスが日本より新しくてきれいだった。片側2人がけだが座席が広くてゆったりしている。冷房もきく（この時期（7月）必要なのかな？まあ、日差しはそれなりに強いからな）。トルンのバス停は市の中心から離れていて、「バス停」といった看板もないで気づきにくい。僕はというとセバスチャン宅に一晩やっかいになって、さらに連れて行ってもらった（この辺りかなり図々しいかな？）。



図1 見送ってくれたセバスチャンたち



図2 ワルシャワの町並み
手前にトラムの敷石が見える

トルンからワルシャワまではバスで4時間強。やや長時間の移動のために途中でトイレ休憩があった。ただ、ぼくはポーランド語がわからないので出発時間に遅れるのを避けるためにバスの中でじっとしていたが。ワルシャワは人口160万というから、グダンスク（46万）、トルン（20万）に比べると大都会だ。人も多いし、地下鉄も路面電車（トラム）も動いている。市民は（首都だからか）ちょっと早足で、（ほんの少し前まで社会主義だったからか）サービスに欠けるところもある。首都につきものの乞食もいたし。まずは、セバスチャンから見ておくといいと言われていた旧王宮をめざす。地下鉄で移動して、そこから歩いたが恒例となったように道に迷った。さあ、毎度のことながらよくわからん。とりあえず、向こうからきた民族衣装を着たお姉さんたちにきいてみる。「ごめんなさい、私たちもケルンから来たからよくわからないの。」ああ、あの衣装はドイツのか。お上りさんの僕には区別がつかなかった。まあ、しかたないかと彷徨いながらなんとか旧王宮に到着する。旧王宮について、あまりコメントはないけど第二次世界大戦でドイツ軍に徹底的に破壊されたものを40年近くかけて復元していったポーランド人の執念と、それでも「新しい」建物との印象を与えて

しまう無念さが漂つてくる場所だった。紙面も半分をすぎたところでやっと本題のコペルニクス像に向かうわけだが、かの像は旧王宮から 600 mほど新世界通りを行ったところにあった。その像の斜め前にはポーランドが誇るもうひとりの偉人、ショパンの心臓が埋められている聖十字架教会。ワルシャワのコペルニクス像は右手にコンパスを左手に天球儀を持ち、ポーランド科学アカデミーの前に鎮座していた。

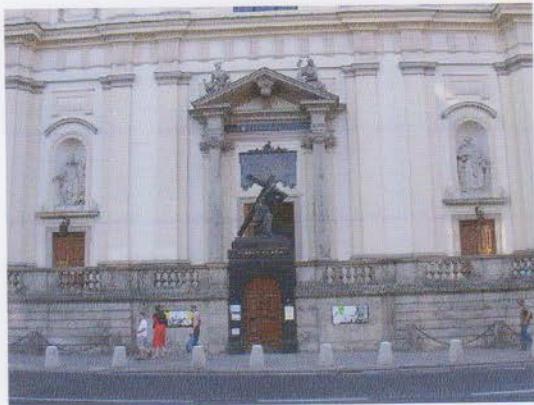


図3 聖十字架教会



図4 ワルシャワのコペルニクス像



図5 ポーランド科学アカデミーの壁にはコペルニクスを説明するプレートがつけられていた（右は拡大したもの）

さてさて、もともとこの企画は小暮さんの天文月報の記事（2004年10月号）に刺激を受けて学会についてにと思いついたものだが、こうしてフロムボルク・トルン・ワルシャワのコペルニクス像を改めて振り返ってみると、フロムボルク＝施政者としての像。トルン＝地動説の伝承者としての像。ワルシャワ＝ポーランド科学の象徴としての像だったようにも思える。だが3体の像だけではなく、その他にもコペルニクスの名を冠した事物に出会ってきた。今回の旅は「3人のコペルニクスに会ってきた」旅ではなく「（ポーランド人の心の中にある）無数のコペルニクスに会ってきた」旅だったのかもしれない。（完）

2005年11月の県民天文台～運営日誌より～

開台率10日/12日=71.4% 一般来台者数47名 会員来台49名

| 日付 | 天気 | 来客数 | 担当運営 | 記事 |
|----------------|-------------|--------------------|------------------------------------|--|
| 1日 (火) | 晴れのち 曇り | 熊大天文 部 | 鹿釜 | 火星がきれいでした。 ビデオ撮影：小林ま |
| 4日 (金) | 快晴 | 8名+2 名（時間 外） | 西嶋、TSU、 小林J、TO MMY、立川、 松本 | 火星、M31、アンドロメダ（双眼鏡でスバル） 湿度が高い割には、見え方の美しい夜でした。 火星が主役です。ケータイ撮影したお客様も。 月、金星、火星（例によって手持ち）一西嶋 火星—TOMMY、Tsu |
| 5日 (土) | 曇りのち 雨 | 10名 | Tsu、ヒゲ | 飽田公民館で「天文講座」 「曇りのち雨」の予報。それでも10名の参加 があり、電子紙芝居を使って「星空とは?」「宇 宙とは?」とお互いの理解度を探り合う試みを しました。 「月の女神をほしがった巨人」「火星大接近」 「冬の星空」を上演したら、最後に年輩の女性 の方が「私は片道切符で宇宙旅行に行きたい！」 「いくらかかるか？」と質問されました。 宇宙と一体になる＝宇宙葬をご希望だったよう です。スゴイなあ！ |
| 6日 (日) | 曇り時々 晴れ間 | なし | Tsu | ①予備のコントロールBoxをテスト →増減速ボタンを押すとモーターが失調する ような音が時々でるので後日再テストしま す ②火星の撮影 眼視では結構模様が見えているのだけれど、 風が強くて望遠鏡も揺れているらしく、ビデ オ画面の中では火星があちこち飛び回ってま した！！ |
| 7日 (月) | 晴れ | なし | | Tsu 火星の撮影他 |
| 8日 (火) | 雨 | なし | Tsu、Dio | 火星の撮影 太陽湖付近に黄雲？ |
| 11 日 (金) | 雨 | | Tsu | 川野さんに来ていただいて望遠鏡のメンテナン ス ☆コントローラーのスイッチを交換（赤径方向 切替） ☆予備コントローラーのテスト |

| | | | | |
|----------------|-------------|-----------------------------|-------------------------------------|--|
| | | | | 原因不明のトラブルがあったため後日再テストの予定 |
| 12 日 (土) | 晴れ | 6名+崇 城大学天 文部9名 | Tsu、中島、 小林J、小林 ま、松本、西 嶋、鹿釜 | 金星、火星、月、すばる、アンドロメダγ、ア ルビレオ、hx、ベガ、M57、ベテルギウス、 M42 トーカアバウト 火星(手持ち)一西嶋 M42、すばる、月—崇城大天文部 |
| 13日 (日) | 曇り時々 晴れ間 | なし | Tsu | 夕方まで曇り、19時前に晴れ間が広がり高田 氏から電話で「はれてきたけど、七五三でいっ ぱい飲み始めたので行けない。今日はよろしく！」と連絡があったのでやってきた。 到着したら雲が広がり、そのうちおなかの具合 が悪くなってきたので、今夜は閉めて帰ります。 |
| 18 日 (金) | 快晴 | 4名+鹿 児島天研 (森永さん、山田さん) | 西嶋、小林J、 立川 | 金星、ベガ、ダブルダブル、M57、M31、 アルビレオ、すばる、hx、火星、月 2組のお客様、大変感激して帰られました。 小惑星の食をビデオ撮影(Tsu、高田、小林J、 +鹿児島組) 結果は大成功！！10秒ほど10等の星が画面 から消えました。 |
| 19 日 (土) | くもり | 4名 | 中島、鹿釜 | 火星 あっという間に曇ってしまった！！ 小林J、Tsu、白鳥、室、熊大1人、九東大2人 |
| 20 日 (日) | 快晴 | 家族2組 8人 | Tsu、小林ま、 松野、高田 | 火星、アルビレオ、ベガ、ダブルダブル、M3 6、月 |
| 25 日 (金) | 快晴 | 4名 | 西嶋、小林J | 熱心な親子連れでした。男の子がなかなか勉強 家です。 金星、火星、アルビレオ、ベガ 例によって手持ち撮影：西嶋 金星、火星、M42 |
| 26 日 (土) | くもり 時々雨 | 熊大天文 部3名 | 中島、鹿釜 | 来たのですが見えませんでした。 |
| 27 日 (日) | 快晴 | カップル 2人 | Tsu、高田 | ベガ、火星、ダブルダブル、ベテルギウス、リ ゲル、M42、M35、M1、M31、シリウス |

B 5 のたわごと

一気に寒くなった熊本ですが、風邪など大丈夫でしょうか。ついこの間まではそうでもなかったのに、熊本には秋が無いって言っていいくらい、いきなし寒くなりますから。もちろん夜の天文台はとっても寒いです。来台時は服装にお気を付け下さいませ。今年もあとわずか。まだ火星や金星を見ていない方は、お早めにどうぞ。火星はどんどん小さくなり始めています。それでは皆様、今年一年有り難う御座いました、良いお年を~。

★★★ 平成17年度の会費納入をお願い致します ★★★

☆ 1月の天文現象＆行事☆

- 1日（日） 元旦（熊本の初日の出は07：19頃）
※ 今年の新年会は中止します。会員向けに観測会を開く予定です。
詳しいことは、ホームページ上でお知らせします。
- 4日（水） しぶんぎ座流星群が極大
- 5日（木） くじら座Rが極大（7.2～14.0等） 地球が近日点通過（0.9833270天文単位）
小寒(しょうかん…寒冷一段と厳しくなる。俗に「寒の入り」)
- 6日（金） 小惑星ベスタが衝（08：26 6.2等）
- 7日（土） 上弦（03：56）
- 8日（日） オリオン座Iが極大（4.8～13.0等） カシオペヤ座Vが極大（6.9～13.4等）
- 13日（金） 金星が内合（太陽の北05°28.4' -4.1等 視直径62.6") 以後、明けの明星に
- 14日（土） 満月（18：48）
トーケアバウト（天文台にて 20：00～ 変更の場合もあります）
- 20日（金） おとめ座β星(3.8等)の星食（00：17） おとめ座Sが極大(6.3～13.2等)
大寒(だいかん…寒さは極限。寒の入り(小寒)から数えて16日目頃)
- 21日（土） さんかく座Rが極大（5.4～12.0等）
- 22日（日） おとめ座のスピカ(1.2等)の星食（07：46）
- 23日（月） 下弦（00：14）
- 28日（土） 土星が衝（11:48 -0.2等 視直径20.4" 環長径46.1" 環短径14.9"）
- 29日（日） 新月（23：15）

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2006年1月号 通巻370号
発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226
熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台
TEL 0964-28-6060
振替口座 01700-5-105697
NPO熊本県民天文台事務局

ホームページ <http://astro.magma.ad.jp/>
メーリングリスト参加申し込み → kcaohige@kcaohige.com までメールを